学校番号	１２０３

令和２年度　国語科

教科	国語科	科目	古典Ｂ	単位数	２、４単位	年次	２、３年次
使用教科書	大修館　「新編　古典Ｂ　改訂版」						
副教材等	指導用 DVD-ROM の補助資料　など						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・古文、漢文に幅広く触れて、日本語の成り立ちへの認識を深めるだけでなく、日本の文化やその根底にある日本人の感性や考え方を理解するぐらいの気持ちで取り組んでほしい。
・基礎的な部分は憶える。現代文とは違い「なんとなく」でできるものではない。
・日本史や世界史の勉強を同時にやると効果があるかもしれない。
・授業中の取組や提出物は考査と同じぐらい重要なので、毎時間気を抜かないように。

２　学習の到達目標

・文章の内容を理解し、知識として利用できる。
・作品や作者について、歴史的、文化的な位置づけを把握し、常識の厚みを増す。
・現代の作品や言語状況などと関連づけて知識を体系化できる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	日本の文化、歴史の中での人々の生き方、感じ方、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重し、その向上を図ろうとする。	文意を的確に読み取り、現代との違いを考慮に入れた上で、自身に引き寄せて理解できる。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴、決まりなどの知識を身につけ、また、当時の人々を取り巻く環境、文化、常識などについて、現代との違いを含めて理解している。
評価方法	行動の観察 記述の点検(ノート、ワークシートなど) 考査	行動の観察 記述の点検 (ノート、ワークシートなど) 考査	行動の観察 記述の点検 (ノート、ワークシートなど) 考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	d	e		
第1回考査まで	説話に親しむ	教材:『今昔物語集』 「安倍晴明と百鬼夜行」 『竹取物語』 「かぐや姫の昇天」 文法など…歴史的仮名遣い、動詞の活用	○	◎	◎	a:古典の世界に関心を持ち、現代との違いに着目している。 d:歴史的仮名遣いに注意して音読できる e:歴史的仮名遣いや文法について身につけることができた	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査、グループワーク、発表 e:小テスト、授業中の問答、定期考査
第2回考査まで	物語を読む	教材:『伊勢物語』 「初冠」 「東下り」 文法など…用言の活用			◎	e:文法や当時の常識について現代と比較しながら理解できた。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査、グループワーク e:小テスト、授業中の問答、定期考査
第3回考査まで	小話・寓話	教材:寓話「漁夫之利」 「借虎威」 文法など…漢文訓読、句法の基礎	○		◎	a:中国古典をどのように消化していったか、先人の努力について考えられる。 e:文法や当時の常識について現代と比較しながら理解できた。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査、グループワーク e:小テスト、授業中の問答、定期考査
第4回考査まで	日記・歴史物語を読む	教材: 『土佐日記』 「門出」 『大鏡』 「道真左遷」 文法など…助動詞の活用、月と暦、貴族社会	○		◎	a:古典の世界への理解を深め、現代との違いの理由を考えられる。 e:文法や当時の常識について現代と比較しながら理解できた。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査、グループワーク e:小テスト、授業中の問答、定期考査
第5回考査まで	歌話を読む。	教材: 『源氏物語』 「桐壺」「若紫」 百人一首	○	○	◎	a:古典の世界への理解を深め、現代との違いの理由を考えられる。 d:歴史的仮名遣いに注意して音読できる e:文法や当時の常識について現代と比較しながら理解できた。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査、グループワーク e:小テスト、授業中の問答、定期考査

※　表中の観点について

a:関心・意欲・態度　　d:読む能力　　e:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。